

平成22年度 学校自己評価シート (慶應義塾志木高等学校)

目指す学校像	独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な学問の習得 2 個性と能力をのばす教育 3 学校行事とクラブ活動の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------	---

出席者	学校関係者	8名
	生徒	名
	事務局(教職員)	1名

学校自己評価					平成22年度 評価 (平成23年4月28日現在)	
平成22年度 目標					評価項目の達成状況	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策
1	将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するように指導する。特に大学一般教育課程に応じた学習指導に留意し、学力の全体的向上を図る。	基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するための指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各教科部会においてきめ細かい指導方針の確立と実践 必修科目、選択科目、多様な語学科目を充実させ、幅広い学問的好奇心等の要求に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 教科責任者会議において情報共有と学習指導方針の摺り合わせを図る。 	A	<p>【基礎的な学問の取得】</p> <p>【必修科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の授業において「図書館利用」、「映像メディア利用」、「PC利用」、「添削指導」、「独自教科書の使用」を積極的に行った。 日本史の授業では、講義のなかで映像・画像資料の活用を努めたほか、自主的なレポート作成を奨励した。 2009年度より、高大連携教育の一環として、大学理工学部1年生対象の数学授業を聴講できる制度が始まった。合格し、理工学部の当該学門に進学した際には、大学の単位として認定される。 英語で多読を指導。図書館に多数の英書を揃えた。 <p>【総合的な学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間『語学課外講座』の教育の一環として、調理実習を通じ、各国の文化と伝統を学ぶ機会が多くあった。 <p>【全体的な学習環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理工学部見学会を実施し、研究室の見学や模擬講義の受講をした。 3学年すべてのクラスにAV機器を設置し、視覚・聴覚に働きかえるように授業の充実を図った。 「研究紀要」第41号、「ことばと文化」第15号を発行し、教育、研究の発表の場を充実させた。
2	現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 教員会議において生徒の現況の情報共有化と協力体制を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 短期留学先をアメリカ本土やイギリスへ拡大し、春期休業中にも実施する。 HR充実のための継続的な情報収集 本校生徒にみられる精神的成長(その過程で生じる不安感や悩みなども含む)の特徴を調査・分析し、今後の教育活動に活かす。

学校関係者評価	
実施日	平成23年 5月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>1. 基礎的な学問の習得</p> <p>慶應義塾大学への進学を見据えた自主的な学問・研究に主眼を置いたユニークな取り組みは高く評価する。特に積極的な情報機器導入授業、様々なテーマを設けた調査・研究、工夫を凝らした授業展開等は、多様な興味・関心を持つ本校生徒に則した取り組みと感じ、継続的指導を希望する。</p> <p>課題となっている他教科とクロスオーバーした総合的な学習の機会づくりや大学との連携は、様々な調整が必要とされるであるが、24年度からの土曜日授業を活用するなどして実現を期待したい。</p> <p>学問・研究の必要性からの選択科目・社会科の取り組みは、生徒たちの関心も高く、内容的にも非常に評判となっており、本校の特色になるであろうと思われる。</p>	
<p>2. 個性と能力を伸ばす教育</p> <p>積極的な偏りのない学習・研究の場づくり、自己表現の場づくり等、能力開発・将来的進路高察の機会となる取り組みは、本校の特色ある教育と言えるものであり、生徒の限りない向上心を満たす上でも、保護者としても高い肯定的評価をしている。</p> <p>来年度予定されている短期留学においては、異文化の直接的なふれあい、人と人との交流を学ぶ機会となり期待を寄せるものである。</p> <p>近年増加傾向にあるストレスを抱える生徒の対応については、多感な時期ゆえに保護者が介入できない部分を、生徒一人一人の人格を尊重した教育姿勢に則り、教師・医師・カウンセラーそれぞれの専門的立場で生徒に寄り添い保護者からも信頼をよせている。</p>	

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価		
平成22年度 目 標			平成22年度 評 価 (平成23年4月28日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や規範意識を育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践。	・学級担任会、生徒会委員会、体育部会・文化部会等においてきめ細かい指導方針の確立と実践 ・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の充実	・HR活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動においての適正な指導を図る。	<p>【多様な学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BLS講習会を実施し、緊急時や健康危機に対する対処の技術を学び、実践を通じて安全確保の意識と技術向上を図り、日常生活の中での健康危機に即座に対応できるように努めた。 ・生徒総会で、クラブ活動、生徒会活動などに関する議論が積極的に展開されていた。 ・収穫祭が生徒の活動を中心として行われた。 ・収穫祭を催すにあたり、生徒の自主的な活動をサポートする形で、自己表現と団結の時間と場所を共有することが出来た。 <p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動を通して、基本的な生活態度を整えることが出来た。縦の繋がりの希薄な世代において、上級生が下級生をしっかり指導し、統制をとることのできる環境作りが出来た。 ・硬式野球部が秋季大会にてベスト8に入り、第83回全国高等学校選抜野球大会21世紀枠の埼玉県推薦校となった。 ・マンドリンクラブが、夏、春の合宿および他校と共催の「関東高等学校マンドリンクラブの集い」に参加した。また、収穫祭や慶應義塾マンドリンクラブ100周年記念演奏会(サントリーホール)に参加した。 ・ワグネルソサイエティ男声合唱団が県コンクール金賞、県代表として関東コンクールに出場し銀賞を受賞した。また、一般合唱団との交流やホテルでのロビーコンサートなど地域との交流をはかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理を徹底する。特にインフルエンザなどの感染症に対応できる体制を作る。 ・学校行事の充実を図る。 ・スケジュール管理を徹底する。 ・実行委員の役割分担の見直しを行う。 ・クラブ活動における事故対応について、現状より更に家庭との連絡を密にし、復帰後のケアを充実させる。 ・各クラブ活動の様子を、ホームページなどに掲載し、情報を充実させる。 ・各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励していく。
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正門脇に設置した掲示板により、「校内自然観察会の案内」、「緑の羽根募金の結果」などを掲示し、地域住民の方々へ情報を提供した。 ・公式ホームページのリニューアルを継続実施中である。 ・PTA総会、学校説明会、保護者会を昨年度までと同様に行った。 <p>【クラブ活動を通じた地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志木市立志木小学校にて器楽部が3・4年生の学年行事として演奏会を行った。 ・器楽部が吹奏楽コンクールにおいて地区、県、西関東と代表として進み、東日本大会において金賞(1位)を受賞した。 <p>【学校行事を通じた地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭(文化祭の名称)において、校長を始めとする複数の教員による模擬授業を行ったところ、一般の方々にも授業に参加して体験していただける機会があった。また、生徒会ブースでは、高校生の視点で本校に対する質問コーナーを設け、一般の方々へ本校への理解を深めていただける機会があった。 <p>【学校施設を利用した地域交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催し、65名の参加を得た。これにより、3年間での累計参加者数は300名を超えた。 ・教員個人レベルでは地域との活動はあったと思うが、学校全体としてはより工夫が必要である。 ・志木小学校にどんぐり拾いの場所提供を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校掲示板(正門脇)の有効活用を議論し、実施する。 ・公式HPの内容や更新頻度の見直し、公式HPのニュース欄を利用した各種行事、部活動の戦績などの公開を積極的に行う。 ・広報活動をより活発にして、学校行事に限らず、さらなる情報の発信を図る。 ・「学校案内」の定期的な更新を行う。 ・OBや一般市民向けの本校教員による公開講座実施などの可能性の検討が望まれる。 ・自然観察会や一部のクラブ以外での地域社会との関わりを考える必要がある。 ・学校施設の地域社会への開放について不十分な面もあるので、今後も検討を行う。
					学校関係者からの意見・要望・評価等		
					実施日 平成23年 5月28日		
					<p>3. 学校行事とクラブ活動の充実</p> <p>生徒会・収穫祭(文化祭の名称)・運動会を始め、生徒が活動の中心となって行う行事が充実しており、全学年を通して保護者の参観が多く、学校・生徒・保護者の協力的な関係が築かれている点は高く評価をする。</p> <p>クラブ活動においては、運動系・文化系ともに良い成績をおさめ、保護者としても大変嬉しく思っている。また家庭では教育できない、団体生活の厳しさ、師弟・先輩・後輩の関わり方や仲間の大切さ等を学ぶ場となっており、これからも大いに期待をすることが出来る。</p> <p>男子校であるため衛生面の自己管理に欠けるところが見られる。感染を伴うものに発展することを防ぐためにも、集団のための自己管理の指導を望む。</p>		
					<p>4. 開かれた学校づくりの推進</p> <p>保護者への情報公開は積極的に行われており信頼を寄せるものである。</p> <p>地域との関わりではクラブ活動の一環とした生徒による訪問型から、恵まれた環境を利用した学校訪問や模擬授業の一般参加等の積極的な交流の機会が設けられ、高く評価をしている。今後のさらなる展開、継続を期待する。</p> <p>広報活動の課題となっている公式ホームページのリニューアル、更新頻度の見直し、内容の充実、情報発信としてのツールだけでなく、学校の活気さも与えるものであるのでは是非取り組んでほしいところである。</p>		